

2021 年 2 月

株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

## 基調判断

(2020/12 月中心分)



**新**型コロナウイルス感染症の影響などにより投資活動が弱含むなかで、感染再拡大に対する懸念や需要喚起策の一時停止などを背景に生産活動や個人消費の一部で抑制的な動きがみられ、足踏み状態にある。

最近の国内経済については、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、12 月の公共工事請負金額は 3 カ月連続で前年を下回り、弱含んでいる（2020 年 4～12 月累計の対前年比は 13.3%減、全国 3.0%増）。

設備投資は、2020 年度は製造業、非製造業ともに前年度を下回り、全産業でも前年度を下回る計画（日銀短観 12 月の全産業設備投資額は、2019 年度実績対前年度比 0.6%増、2020 年度計画同 32.4%減）。

住宅建設は、11 月の新設住宅着工戸数が 3 カ月連続で前年を下回り、弱含んでいる。

個人消費は、大型店売上高（12 月）は 3 カ月ぶりに前年を下回った。乗用車新車登録台数（12 月）は 3 カ月連続で、家電量販店販売額（11 月）は 2 カ月連続で、それぞれ前年を上回った。引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

生産は、11 月の鉱工業生産指数（季調済指数）が、鳥取県は 2 カ月連続で、島根県は 2 カ月ぶりに、それぞれ前月を上回った。内需関連業種の一部に足踏み感がうかがわれるものの、持ち直しの動きがみられる。

雇用情勢は、11 月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差 0.02 ポイント上昇の 1.22 倍、島根県では前月差 0.02 ポイント上昇の 1.38 倍となった。弱い動きとなっている（全国は 1.06 倍）。

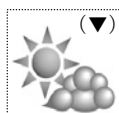
企業の業況判断は、足元、製造業、非製造業ともに改善し、全産業で改善となった（前回▲29→今回▲11）。先行きについては、製造業は改善を見込んでいるものの、非製造業では悪化を見込んでおり、全産業でも悪化の見通しとなっている（日銀短観 12 月調査）。

このように、当地の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより投資活動が弱含むなかで、感染再拡大に対する懸念や需要喚起策の一時停止などを背景に生産活動や個人消費の一部で抑制的な動きがみられ、足踏み状態にある。

先行きについては、感染状況に伴う不透明感が強いものの、個人消費が底堅さを増し、生産活動も需要回復をうけて上向くとみられることなどから、緩慢な持ち直し基調が続くものと予想される。

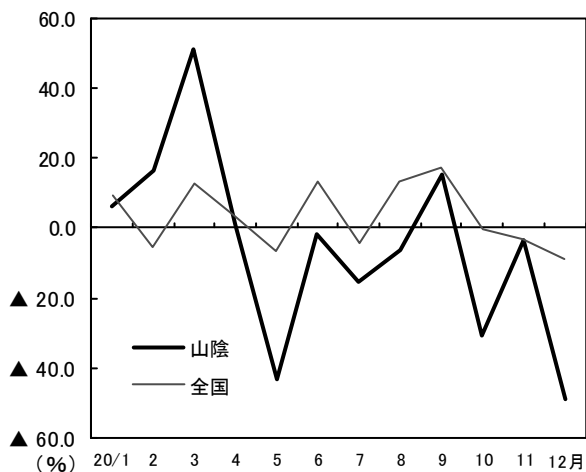
# グラフでみる経済動向

## 1. 公共投資



『弱含み』

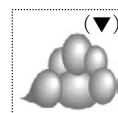
公共工事請負額（対前年比）



- 12月の山陰両県の公共工事請負状況は、件数が336件、請負額は前年比49.0%減の88億30百万円と、3カ月連続で前年を下回った。
- 請負額の年度累計（2020/4-12月）は、前年比13.3%減と前年を下回っている。

《資料出所：西日本建設業保証株》

## 2. 設備投資



『全産業で前年度を下回る計画』

設備投資額（対前年度比）

(単位：%)

|      | 19年度実績 | 20年度計画 | 全国20年度計画 |
|------|--------|--------|----------|
| 全産業  | 0.6    | ▲ 32.4 | ▲ 3.9    |
| 製造業  | 3.6    | ▲ 31.8 | ▲ 3.1    |
| 非製造業 | ▲ 10.6 | ▲ 35.2 | ▲ 4.5    |

- 2020年度の設備投資額（日銀短観20年12月調査）は、全産業で前年度比32.4%減（製造業31.8%減、非製造業35.2%減）と、前年度を下回る計画となっている。
- また、全国は全産業で3.9%減の計画となっている。

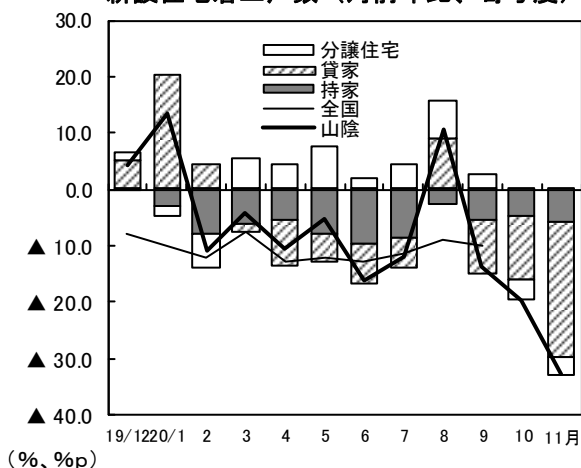
《資料出所：日本銀行松江支店》

## 3. 住宅建設



『弱含み』

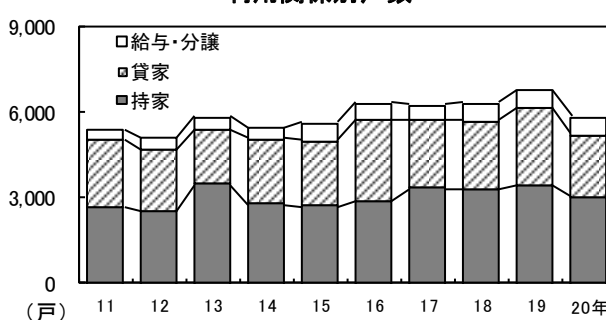
新設住宅着工戸数（対前年比、寄与度）



※「新設住宅着工戸数」山陰両県の対前年比は、全体、利用関係別寄与度ともに3カ月移動平均で表示している（ただし全国は単月）。

また、「利用関係別戸数」は、過去10年間における年間着工戸数の推移を利用関係別に示しており、うち2020年は年率換算の推計値を掲載している。

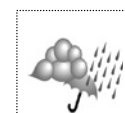
利用関係別戸数



- 11月の山陰両県の新設住宅着工戸数は前年比21.5%減の519戸と、3カ月連続で前年を下回った。また、全国は同3.7%減と、17カ月連続で前年を下回った。
- 利用関係別にみると、持家（前年比2.8%減）、貸家（同45.9%減）で前年を下回り、分譲住宅（同47.8%増）は前年を上回った。
- 2020年累計（2020/1-11月）は、全体では前年比13.5%減と前年を下回っている（全国は同10.1%減）。また、利用関係別にみると、持家（前年比12.2%減）、貸家（同20.1%減）は前年を下回っている一方、分譲住宅（同21.0%増）は前年を上回っている。

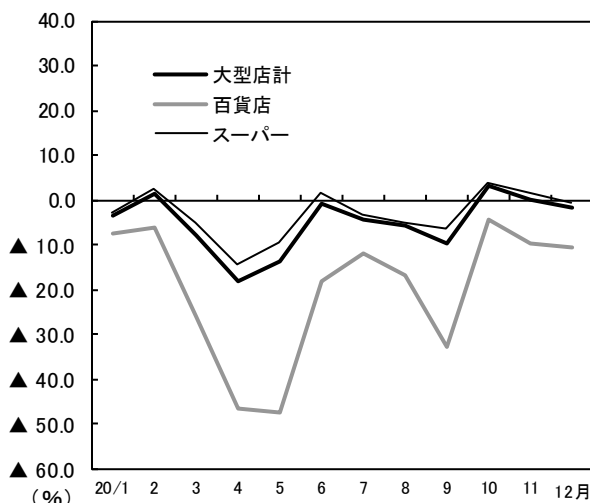
《資料出所：国土交通省》

## 4. 個人消費



## 『持ち直しの動き』

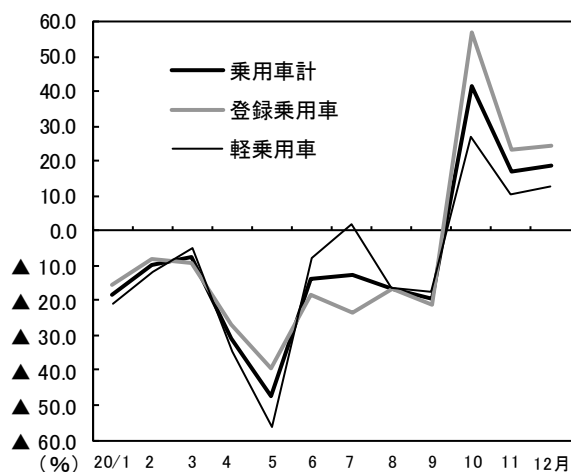
大型店売上高（対前年比）



- 12月の山陰両県大型小売店（約20社、速報値、当行調査先）の売上高は、191億63百万円で前年比1.8%減と3カ月ぶりに前年を下回った。
- 2020年累計（2020/1-12月）は、前年比5.1%減となり、前年を下回っている。
- 百貨店（12月）は、全体で前年比10.7%減と、15カ月連続で前年を下回った。GoToトラベル事業の全国一斉一時停止（12/28～2/7）の影響や、新型コロナウイルス感染者数の再拡大で客の外出頻度が減少、加えて12/30からの大雪の影響に伴い入店客数、売上は一気に減少した。
- スーパー（12月）は、前年比0.6%減と、3カ月ぶりに前年を下回った。
- 先行きについては、新型コロナの影響が続き、不透明感を払拭できないものの、「軽減税率」、「マイナポイント事業」、GoToトラベル事業「地域共通クーポン」等による消費の下支え効果が期待される。

《資料出所：当行》

乗用車新車登録台数（対前年比）

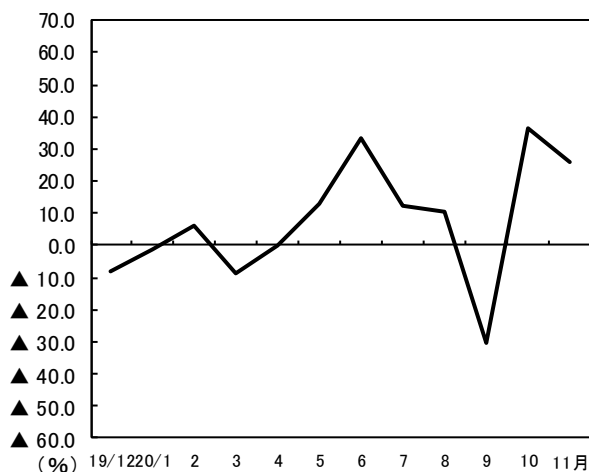


- 12月の乗用車新車登録台数は、登録乗用車（普通車、小型車）と軽乗用車合計で前年比19.0%増と、3カ月連続で前年を上回った（全国は同10.9%増）。
- 2020年累計（2020/1-12月）は、前年比10.3%減となり、前年を下回っている。
- 登録乗用車は、普通車が前年比43.8%増と、3カ月連続で前年を大幅に上回った。小型車は同7.7%増と、3カ月連続で前年を上回った。全体では同24.4%増と、3カ月連続で前年を上回った。
- 軽乗用車は前年比12.8%増と、3カ月連続で前年を上回った。
- 新型コロナで低迷していた市場の回復が進んでいる。

※軽乗用車は「届出」の台数

《資料出所：中国運輸局鳥取運輸支局、同島根運輸支局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会》

家電量販店販売額（対前年比）



- 11月の家電量販店販売額は、前年比26.2%増と、2カ月連続で前年を大幅に上回った。
- 11月は、特にテレビ、パソコン等の黒物商品を中心に、おおむね全商品の売れ行きが好調となった。また、空気清浄機、加湿器等のウイルス対策商品にも引き続き良い動きがみられた。
- 2020年累計（2020/1-11月）は、前年比6.0%増となり、前年を上回っている。
- 先行きについては、新型コロナの影響が尾を引くことに加え、買い替えサイクル期にあたっているテレビ等の伸長が引き続き期待される。

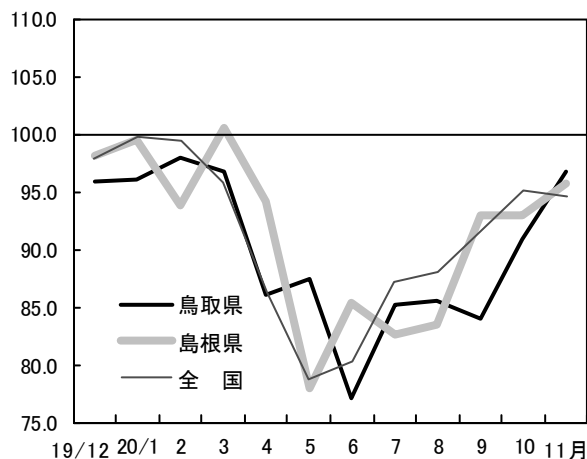
《資料出所：中国経済産業局》

## 5. 生産



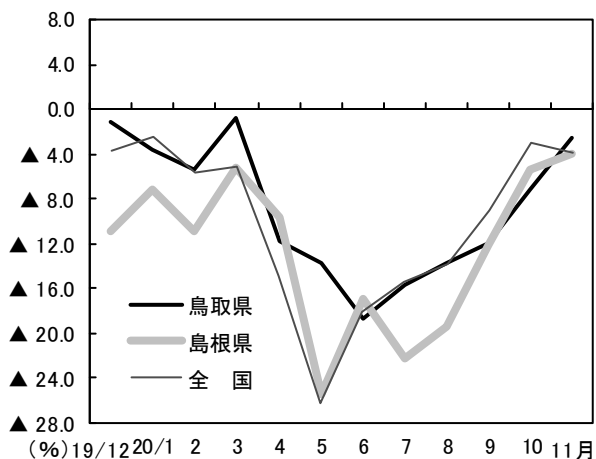
### 『持ち直しの動き』

鉱工業生産指数（季調済、2015年＝100）



■11月の鉱工業生産指数（季調済、2015年＝100、鳥根県は速報値）をみると、鳥根県は96.8で前月比6.5%上昇し、鳥根県は95.7で同2.9%上昇した。鳥根県は2カ月連続で、鳥根県は2カ月ぶりに、それぞれ上昇した（全国は94.7で同0.5%低下）。

鉱工業生産指数の対前年比（原指数）



■鉱工業生産指数の前年比（原指数）をみると、鳥根県は2.5%低下し、鳥根県は4.0%低下した。鳥根県は14カ月連続で、鳥根県は24カ月連続で、それぞれ前年を下回った（全国は同3.9%低下）。

《資料出所：鳥取・鳥根両県統計担当課、経済産業省》

### 《個別動向》

#### ■鉄鋼

特殊鋼は受注環境の悪化に歯止めがかかりつつあり、電子材料や産業機器材料などの分野で需要回復の兆しがみられる。工作機械用鋳物については、景況悪化を背景とした工作機械需要の停滞などにより低水準の受注が続いている。

#### ■一般機械

農業機械は、海外向けは量販機種を中心に増産体制を敷いているほか、国内向けも小型・安価な機種の引き合いが続いており、全体として底打ち感が広がっている。その他の機械については、一部の特定用途向けで散発的な引き合いがみられるものの総じて低調に推移している。

#### ■電子部品・デバイス

高度な安全装備を搭載した自動車の増加や高性能な情報通信機器の普及などを背景に需要は底堅いものの、最終製品の市場動向に先行き不透明感が強いことなどから一進一退の動きが続いている。

#### ■輸送機械

自動車需要の持ち直しをうけて部品生産もコロナ禍直前の水準に戻ったものの、挽回生産の一巡などにより一段の押し上げは期待しにくい状況にある。

#### ■窯業・土石

生コンは、前年の道路工事の反動が残るなかで、廃棄物処理施設の整備や工場の新設・増強などの案件が出荷を下支えしている。石州瓦は屋根材需要の変化への対応の遅れなどから低調に推移している。

#### ■紙・パルプ

包装資材向けは省包装化・軟包装化の影響などにより弱含みで推移している。印刷・情報媒体向けについても、出版物需要の減退やペーパーレス化の動きなどを背景に減少傾向にある。

#### ■繊維

繊維製品は需要の季節変動による繁閑がみられるものの、国内需要の伸び悩みから、総じて低調に推移している。

#### ■食品

内食需要にかかる商品は堅調に推移している。観光関連商品は観光支援策等の影響から持ち直していたが、先行きは厳しい見通し。

#### ■木材・木製品

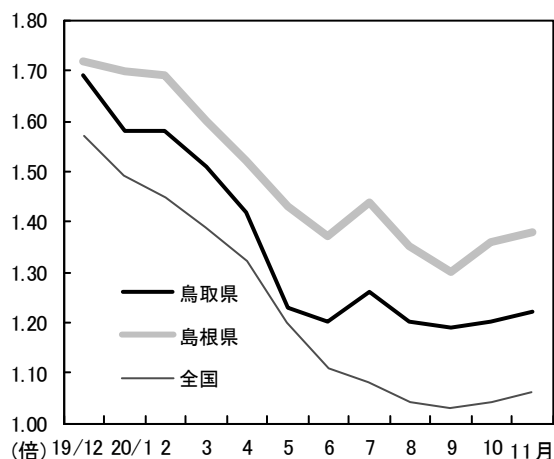
全国的に持家の着工が低調ななかで、木製品需要は持ち直しの兆しがみられる。原木需要も単価が持ち直しつつある。

## 6. 雇用情勢



## 『弱い動き』

有効求人倍率（季節調整値）



- 11月の有効求人倍率（季節調整値）をみると、鳥取県は前月差0.02ポイント上昇の1.22倍、島根県は前月差0.02ポイント上昇の1.38倍となった。弱い動きとなっている。
- 全国は前月差0.02ポイント上昇の1.06倍となった。

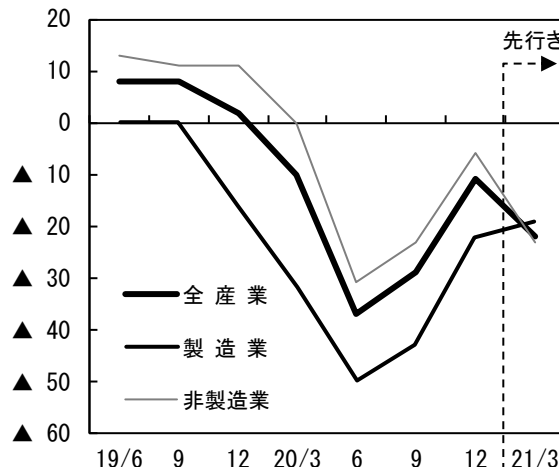
《資料出所：鳥取・島根労働局職業安定課、厚生労働省》

## 7. 企業の業況判断



## 『足元改善、先行きは悪化見通し』

業況判断D.I.（日銀短観12月）



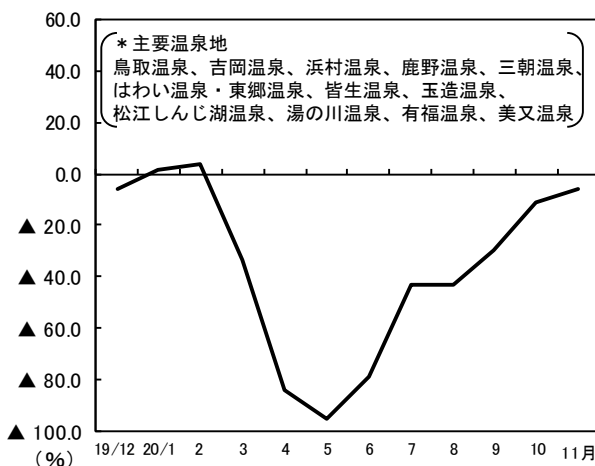
- 日銀短観（20年12月）によると、足元の業況判断は、製造業、非製造業ともに改善し、全産業でも改善となった（前回▲29→今回▲11）。
- 先行きについては、製造業が改善、非製造業が悪化を見込んでおり、全産業で悪化の見通しとなっている。

《資料出所：日本銀行松江支店》

## 8. 主要温泉地宿泊人員

## 『前年を下回る』

山陰地方主要温泉地宿泊人員（対前年比）



- 11月の主要温泉地宿泊人員（速報値）は、前年比6.3%減の173,942人と、9カ月連続で前年を下回った。新型コロナウイルスの影響が尾を引いているが、観光支援策等の下支えもあり、前年同月の9割超の水準まで回復した。
- 県別にみると、鳥取県は前年比3.9%減、島根県は同9.6%減と、それぞれ9カ月連続で前年を下回った。
- 2020年累計（2020/1-11月）は、前年比39.0%減と前年を下回っている。

《資料出所：当行》

## 9. 企業倒産

## 『件数、負債額ともに前年を下回る』

倒産件数、負債額（単位：件、百万円、%）

|       |     | 20/12月 |        | 20/1~12月 |         |
|-------|-----|--------|--------|----------|---------|
|       |     | 実数     | 前年比    | 実数       | 前年比     |
| 製造業   | 件数  | 1      | —      | 6        | ▲45.5   |
|       | 負債額 | 10     | —      | 909      | ▲55.0   |
| 建設業   | 件数  | 0      | ▲100.0 | 6        | ▲40.0   |
|       | 負債額 | 0      | ▲100.0 | 911      | ▲12.5   |
| 卸売業   | 件数  | 1      | 0.0    | 5        | 0.0     |
|       | 負債額 | 130    | 550.0  | 7,275    | 3,299.5 |
| 小売業   | 件数  | 0      | ▲100.0 | 12       | 0.0     |
|       | 負債額 | 0      | ▲100.0 | 1,397    | ▲40.6   |
| その他業種 | 件数  | 1      | ▲50.0  | 22       | ▲4.3    |
|       | 負債額 | 15     | ▲81.0  | 5,619    | 156.2   |
| 合計    | 件数  | 3      | ▲50.0  | 51       | ▲16.4   |
|       | 負債額 | 155    | ▲64.4  | 16,111   | 106.0   |

- 12月の山陰両県の企業倒産（負債額1千万円以上）は、件数は前年比50.0%減の3件、負債額は同64.4%減の1億55百万円と3カ月ぶりに前年を下回った。
- 倒産件数の年累計（2020/1-12月）は、前年比16.4%減と前年を下回っている。また、業種別では、製造業、建設業などで前年を下回っている。

《資料出所：㈱東京商工リサーチ》



お天気マークの5分類

明るい



一部に明るさ



停滞



不振



厳しい



注：マークの右肩の△は先月より上方修正、▼は同じく下方修正を示す。（ ）は修正の一手手前の状況。

マンスリー山陰経済

2021年2月

発行：株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

〒690-0062

島根県松江市魚町10

TEL：0852-55-1000 FAX：0852-27-8249

無断転載を禁ずる